

## 外国語を主体的に学ぶ態度の育成

—— ICT を活用した「話すこと」の指導を通して（第5学年） ——

うるま市立勝連小学校教諭 上江洲 渉 子

### I テーマ設定の理由

現代社会は、情報化やグローバル化の進展、人工知能の進化等著しく変化し未来予測が困難な時代となっている。そのような中、私たちは外国との関わりを避けて通ることができない生活環境にある。外国語によるコミュニケーション能力が一部の職種や人々のみでなく、様々な人々に求められ、生涯にわたり外国語を通して異なる言語や文化を持つ人々に、自分の考えや気持ち伝えることが多くの場面で必要とされる。

平成 23 年度から小学校高学年において外国語活動が導入され、英語教育の在り方に関する有識者会議において「小学校における外国語活動の現状・成果・課題について」が出された。その中で、児童の 76%が「英語の学習が好き」と回答し、91.5%が「英語が使えるようになりたい」と肯定的な回答をしている。また、「小学校の外国語活動を行ったことが中学校英語で役立っている」と中学生の約 8 割が回答している。しかし、『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国編』（平成 29 年度告示、以下『解説外国語編』）では、学年が上がるにつれて児童の学習意欲に課題があると示されている。そのため、外国語の授業においては児童の学習意欲を高めるため、児童の興味・関心を高め主体的な学びに繋がるよう、授業改善が必要だと考える。

本研究の調査対象である児童の実態調査において「外国語の授業が好き」という児童の割合が学級の 9 割以上と高く、教師の指導に素直に耳を傾け学習に取り組むことができる。「外国語の「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」でどの活動を楽しんでいますか」という質問に対しては「話すこと[やり取り]」を好む児童が多く、その理由は「英語が通じて嬉しい」「相手のことを知れるから」等、外国語を用いてコミュニケーションを行うことを楽しんでいることが考えられる。また、「話すこと[発表]」に対して「発表が苦手だから」「発表して間違えるとちょっと嫌になるから」等、「話すこと[発表]」に対して苦手意識がある児童が多いという実態が分かった。「話すこと[発表]」の学習活動において工夫改善の必要がある。

うるま市では今年度全児童に端末が配布され、児童は端末を活用することに興味、関心が高い。これまでの外国語の授業実践において、学びリンクを活用しチャンツを歌ったり、発音練習をしたりしている。また、自分のスピーチを動画撮影し教師や仲間からの声かえやアドバイスをもらい、次の活動へ生かしている。しかし、端末の操作には個人差がありこれからの児童の学びにとっては欠かすことのできない端末を文房具と同様に使いこなせるよう、多くの場面で活用していくことが必要である。これまでの実践を振り返ると、教科化される以前は児童の興味・関心の高い歌やゲームを取り入れた活動を行っていた。教科化されてからは基本表現や単語等を中心に指導し、「主体的な学び」に繋がる授業展開が十分ではなかった。

そこで本研究では、児童の興味、関心の高い ICT を意図的、計画的に活用し、外国語を主体的に学ぶ態度を育成したい。また、英語で表現することに不安を持つ児童に「やってみたい」「できるようになりたい」という意欲を引き出したい。教師や仲間からの評価や声かけにより児童が自分のできていることや課題を捉えることで主体的に学ぶ態度に繋がると考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

主体的に学ぶ態度を育成するために ICT を活用し、自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく表現する外国語授業の工夫改善を研究する。

### Ⅲ 研究仮説

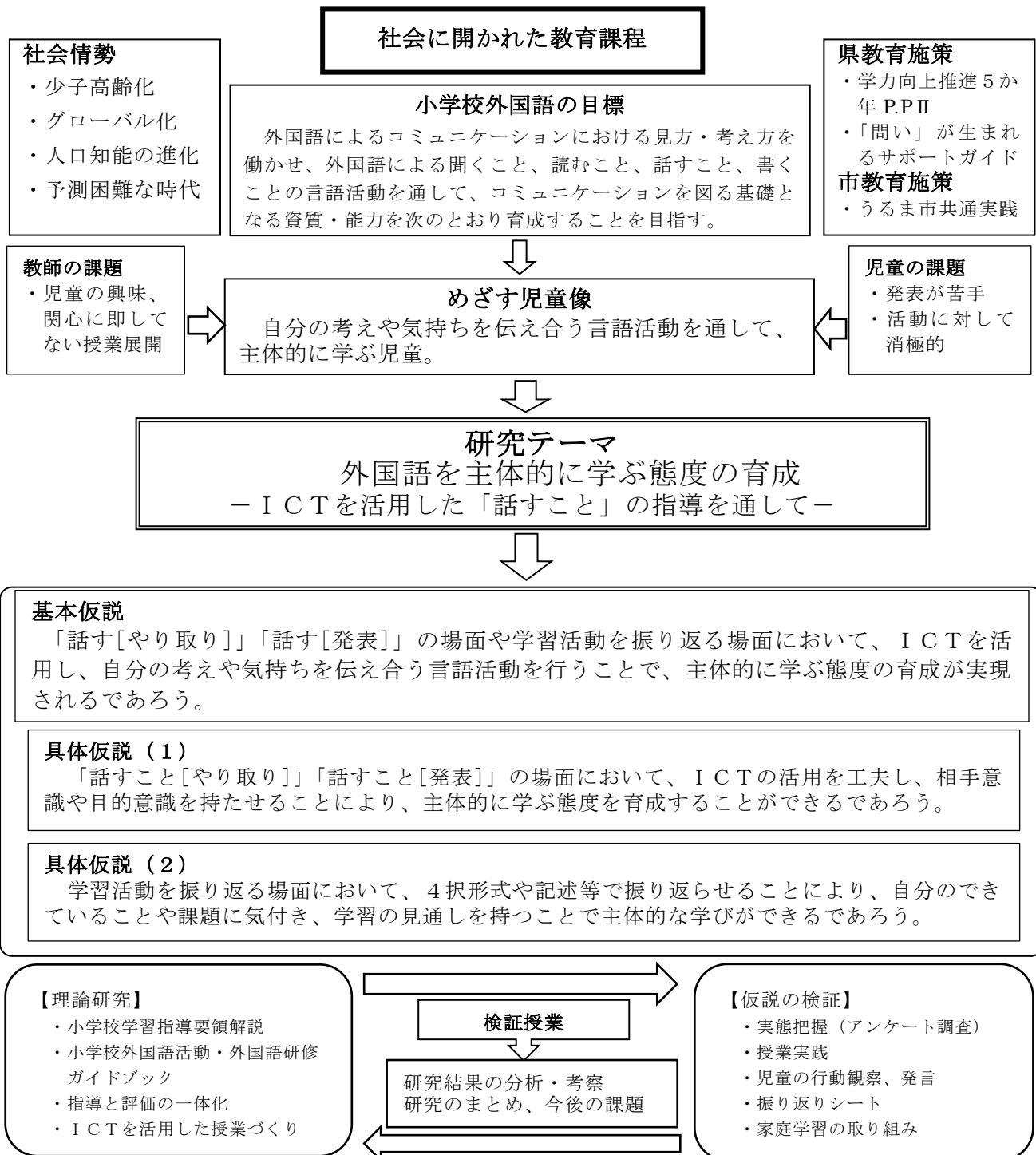
#### 1 基本仮説

「話す[やり取り]」「話す[発表]」の場面や学習活動を振り返る場面において、ICTを活用し、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことで、主体的に学ぶ態度の育成が実現されるであろう。

#### 2 具体仮説

- (1) 「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の場面において、ICTの活用を工夫し相手意識や目的意識を持たせることにより、主体的に学ぶ態度を育成することができるであろう。
- (2) 学習活動を振り返る場面において、4択形式や記述等で振り返らせることにより、自分のできていることや課題に気づき、学習の見通しを持つことで主体的な学びができるであろう。

### Ⅳ 研究の全体構想図



## V 理論研究

### 1 主体的に学ぶ態度について

中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）では、「主体的な学び」について、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」と示されている。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校外国語』では主体的に取り組む態度は外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況の評価をしている。そこで本研究では『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（文部科学省平成 29 年 6 月）（以下『外国語ガイドブック』）による主体的な学びの視点に基づき、主体的に学ぶ児童の姿を表 1 のように捉え視点ア、ウ、エを見取る。

表 1 主体的に学習に取り組む児童の姿

	○外国語の主体的な学びの視点	◎本研究の主体的に学ぶ児童の姿
ア	○外国語を学ぶ、外国語を用いたコミュニケーションに興味や関心を持つ。	◎楽しさを感じている。
イ	○世界と関わり、学んだことを生かそうとすることを意識する。	◎積極的に既習表現を使っている。
ウ	○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定、理解し、見通しを持ち粘り強く取り組む。	◎相手意識、目的意識を持つ。 ◎見通しを持ち粘り強く何度も練習に取り組んだり、コミュニケーションを行おうとしている。
エ	○自らの学習やコミュニケーションを振り返り次の学習につなげる。	◎自分のできていることや課題に気づいている。

### 2 学習を振り返ることについて

『解説外国語編』では、「各単元や各時間の指導に当っては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、外国語を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること」と示されている。沖縄県教育委員会「令和 3 年度版『問い』が生まれるサポートガイド」において、振り返りの意義は表 2 のように示されている。振り返りは主体的な学びをつくる上で重要なポイントになると考えている。

表 2 「振り返り」の意義

1	解決方法や学んだことに自信をもったり、曖昧な点が明確になったりする。
2	自分の学び方の確立につながる。
3	考え方や知識・技能等の学習内容の定着が図られる。
4	学習内容の応用・発展の機会となる。
5	新たな「問い」をもつ機会となる。

#### (1) 振り返りシートについて

菅原慧美(2021)は、主体的な学びと振り返りの相互関係の考察で「毎時間振り返りを行うことで、自己の変容に触れるようになっていたり、前回の振り返りに触れ、前回の自分と今回の自分を比べたりする事例が増えていると言える。自己の変容に触れることは自分の姿をメタ認知していると言える。これは自己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びと深く関わっていると考えられる。」としている。

西川・町、(2021)は「児童は自分の学習を振り返る際に、学習の到達度、到達度判断の根拠、具体的改善策の視点に基づいて振り返りを行うとし、実際に振り返る力が向上した。(中略)児童が振り返りの視点に基づいて振り返ろうとしたり、実際に振り返ったり、自らの学びを改善したりしようとする姿を児童が自らの学びを調整したりする姿と捉え、その向上を示した。」としている。

本研究では毎時の振り返りシートを表 1 と関連づけ、図 1 の振り返りシートを活用し児童の

振り返りを行う。質問1、2は1から4の数値を設定し4が最高値として、選択した数値と理由を記述する。質問3は単元ゴールに合わせて質問し4択形式で行う。4択形式で行うことにより2択の「できる・できない」ではなく、「どこまでできるようになったか」、「ゴールに向かって行く中で今の自分のレベルはどこなのか」に目を向けるために、4択で一番近いレベルにチェックをしていく。これを毎時間行い積み重ねていくことで、自己のレベルの変化に気付き、主体的に単元ゴールへ向かう態度を養う。質問4においては記述する視点を与え、できるようになったこと、できなかったことを記述し、メタ認知が有効に働き自分ができなかったことに対して改善するための方法を考え、自己調整する力を身に付けさせていく。児童は振り返りシートを毎時間 Google Classroom から受け取り、入力後に提出をする。教師は提出された振り返りシートに対してコメントし、次時への意欲づけとなるようにしていく。

Lesson7⑥ ふりかえりシート				
Name( )				
質問1	今日の学習は楽しかったですか？学習満足度は？( )に1から4の当てはまる数字と、理由を書きましょう。 数字( ) 理由( ) <b>主体的ア</b>			
質問2	今日の学習に積極的に取り組みましたか？( )に1から4の当てはまる数字と、理由を書きましょう。 数字( ) 理由( ) <b>主体的ア</b>			
質問3	あなたはゴールの「沖縄料理でレストランを開こう」に向けて、今のあなたのレベルはどこですか？( )にレベルを書きましょう。( ) <b>主体的ウ、エ</b>			
	レベル1 まだまだ	レベル2 友達や先生の助けがあったらできる	レベル3 もう少しで一人できる	レベル4 一人でできる！
質問4	今日の学習で①できるようになったこと②できなかったこと③できなかったことに対して、どのようにしたらできるようになるか？考えて入力しましょう。 <b>主体的エ</b>			

図1 振り返りシート

### 3 「話すこと」における指導について

『解説外国語編』では、「児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切」と示されており、言語活動において児童の実態を的確に捉え言語活動を行うことが重要と考える。『外国語ガイドブック』において、英語を積極的に話そうとする児童を育てるためには、「話す内容を本当に自分の伝えたい内容にすること」「既習表現を繰り返し使いながら、やり取りを大切に活動を設定すること」「実物や写真などを使ったり、表情豊かに伝えたりしながら発表することを実感させること」と示されている。

菅正隆(2019)は「やり取りにおいては、(中略)相手の話を受けて、自分の考えや意向を伝えることができるように指導が求められている。(中略)誰とでも躊躇なく話ができるように指導する必要がある。一方的に話すのではなく、相手が話していることを理解し、相手意識を持ちながら相手の気持ちをおもんばかって、こちらの伝えたいことが伝わるように指導する。」と述べている。また、「発表においては、普段のスモールステップの練習が重要である。やり取りであれば、聞いたことをすぐにでも再生できるが、発表では、語句や1つの表現だけでは発表にならない。日頃からの語句や表現の積み重ねがあって発表が可能となる。(後略)」と述べている。

本研究においては、「話すこと」が教師から与えられた表現をひたすら復唱するなど機械的な繰り返し練習にならないように、児童が自分の考えや気持ちを伝えるため、話す必然性のある場を設定し相手意識、目的意識を明確にした言語活動を行うことを重視する。英語を話すことに抵抗感を持つ児童に対しては、教師や児童同士がサポートし合える学びの集団としての環境づくりや教室に「間違えても大丈夫」という雰囲気づくりに心がけたい。コミュニケーションの際に大切にしたいポイントを「やり取りのポイント」とし提示する。また、発表においては「発表のポイント」を提示し、表情豊かに発表すると相手にも伝わりやすいことを実感させたい。児童が安心して言語活動が行えるようにしていく。

#### 4 ICTの活用について

『解説外国語編』では「児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容に応じて、視聴覚機材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効に活用し児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。」としている。また、「(前略) 具体的な課題を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。」とある。

『学習指導要領総則編』では、「各学校においては児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」とある。文部科学省は(令和3年)外国語指導においてICTを活用する際のポイントとねらいを表3のように示している。

表3 外国語指導においてICTを活用する際のポイント

言語活動・練習で活用	交流・遠隔授業の活用	コンテンツ・授業運営としての活用
児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化を図ることがねらい	遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時への対応がねらい	興味・関心、学習の質を高めることがねらい

##### (1) うるま市GIGAスクール構想ビジョン

令和2年うるま市教育委員会では、ICT教育によるめざす子ども像を「主体的に学び、自らの考えを伝えるとともに、他者の考えを理解し、多様な人々と協働して、新たな価値を見出したり、問題を解決しようとする子ども」としている。身に付ける資質・能力として「情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能」、「情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する力」、「相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解する力」、「他者との協働や複数の情報を結びつけ、新たな価値を見出し、自分の考えを深めたりする力」、「情報を多角的・多面的に吟味し、その価値を見極めていこうとする態度」、「情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度」としている。また、ICT機器を活用しためざす授業像を表4のように示している。本研究において児童が外国語に興味・関心を高め、主体的に学ぶ態度を育成するために、効果的にICT機器を活用した授業構想を図っていく。

表4 ICT機器を活用しためざす授業像

1	教材の拡大表示による視覚的でわかりやすい授業
2	個に応じた支援ができる授業
3	調べ学習や資料・作品制作を通して、思考力・判断力・表現力を育む授業
4	意見交流を通して自分の考えを深める授業
5	1人1人の考えを伝え合う授業

##### (2) ICTを活用した「話すこと」の指導

一般社団法人日本教育情報化振興会は学習指導要領等をもとに、基本となる5つの学習プロセス「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」、「振り返り、改善」及び13のキーワード(発見・収集・整理・比較・処理・統計・形成・発信・伝達・表現・創造・振り返り・改善)から構成される情報活用能力を開発し外国語においては表5のように示した。本研究では、児童の実態を踏まえICTの効果を意識し、目的に応じた活用ができるようにしていく。表5情報活用能力ベーシック外国語を基に単元ごとに活用表を作成し、ICTを意図的、計画的に活用し児童の主体的な学びへ繋げるようにする。またICTを活用して様々なコミュニケーションのツール(メール、Google Meet、Google Classroom等)があることを体験させたい。

表5 情報活用能力ベーシック外国語

	活動内容
課題の設定	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き理解する。
情報の収集	学習指導要領から見出すことができない。
整理・分析	コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて情報を整理しながら考えを形成する。
まとめ・表現	コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、簡単な語句や基本的な表現の中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。
振り返り・分析	言語面、内容面で自ら学習のまとめ振り返りを行い、学んだことの意味付けを行ったり、既習の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげる。

## VI 指導の実際

### 1 検証授業 I (実施日令和3年11月24日)

(1) 単元名 Lesson6 Where do you want to go?

行ってみたい都道府県を伝えよう (教育出版 ONE WORLD)

(2) 単元の目標

- ① 行ってみたい場所やその理由の伝え方・尋ね方を知って、言うことができる。  
(知識及び技能)
- ② 行ってみたい場所を伝える表現のなぞり書きをすることができる。  
(知識及び技能)
- ③ 行ってみたい場所を考えて伝えたり、尋ねたりすることができる。  
(思考力, 判断力, 表現力)
- ④ 相手にわかりやすく話そうとしたり, 相手の話をよく聞こうとしたりする。  
(学びに向かう力, 人間性等)

(3) 単元について

- ① 教材観 (省略)
- ② 児童観 (省略)
- ③ 指導観

学習指導要領外国語目標 (4)「話すこと [発表]」  
ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

「行ってみたい都道府県をわかりやすく発表しよう」という単元ゴールに向かって、①表現に出会う「聞くこと」②新しい表現に慣れる③表現に言い慣れる[やり取り]④友達と協力して自分の学びを客観的に振り返り、発表の練習に取り組む⑤自分の考えや気持ちを表現する「話すこと[発表]」という流れで構成する。単元ゴールに向かい自分の考えと、新たな考えを知識として取り入れたりしながら、自分の考えを再構築し言語活動の質を高めていく。「具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、既得の知識や経験と、他者から聞き取ったり、掲示やポスター等から読み取ったりした情報を整理しながら自分の考えなどを形成する。」(学習指導要領解説より)

本時(第6時)では、相手意識、目的意識を持ち分かりやすく伝えるために、端末のスライドを活用し自分の考えや気持ちなどを相手に分かりやすく整理し発表できるようにする。自分の発表を端末のカメラ機能を活用し撮影を行い自分の姿を見ることを通して、自分のよさや課題に気付けるようにし主体的に学ぶ態度を育てたい。ペア活動において、自分の発表に対して仲間から声かけやアドバイスを受け粘り強く練習に取り組み、自信をもって発表に取り組むことができるようにする。



(4) 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行ってみたい都道府県の尋ね方や答え方、その理由を伝える表現について理解している。(Where do you want to go?) (I want to go to ~.) (I want to see/eat/buy~.) 【知】</li> <li>・行ってみたい都道府県の尋ね方や答え方、その理由を伝える表現について、発表する技能を身に付けている。【技】</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の方と一緒に行ってみたい都道府県を紹介するために、そこでしてみたいこと理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。</li> </ul>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本表現を用いて話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。</li> </ul>

(5) 単元の指導計画・評価計画

◎記録に残す評価 ○形成的評価

※トニーさん:ボランティアで授業に協力してくれた外国の方

時間	めあて◆ 主な学習活動○【 】	評価 「話すこと[発表]」		
		知 技	思 判 表	主 ◎評価規準 <方法>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外国人の行ってみたい都道府県とその理由について、まとまった話を聞き取る。</li> <li>○単元の見通しを持ち、本単元の目標を知る。</li> <li>○【Small Talk】好きな都道府県のやり取りを聞く。</li> <li>○【Let's watch】外国の子供たちが日本で行ってみたい場所やそこで何をしたいか、※トニーさんがアメリカで5年生と一緒に行ってみたい場所の動画を視聴する。</li> </ul>			○ 本時では記録に残す評価は行わないが目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。(以下形成的評価)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外国の子供が行ってみたい都道府県とその理由の尋ね方、答え方を聞き取る。</li> <li>○【Let's Listen 1】外国の子供の会話を聞き取る。</li> <li>○【Small Talk】好きな都道府県のやり取りをする。</li> </ul>		○	[インプット] 聞き取った内容をメモしたり、反応したりしている。 行動観察、振り返りシート 
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外国の子供が行ってみたい都道府県とその理由を尋ねたり、答えたりしよう。</li> <li>○【Let's Listen 2】外国の子供たちに行きたい場所と理由を尋ねる。</li> <li>○【Activity 1】行ってみたい都道府県のやり取りをする。</li> <li>○地図やインターネットからトニーさんと一緒に行ってみたい場所を見つける。</li> </ul>	○		[アウトプット] 行ってみた場所、理由が言えている。 行動観察、振り返りシート 
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行ってみたい都道府県と理由を伝えよう。</li> <li>○【Small Talk】行ってみたい都道府県と理由をやり取りする。</li> <li>○スライドを使って行ってみたい都道府県のクイズをつくる。</li> <li>○【Activity 2】友達とクイズを出し合う。</li> </ul>		◎	◎行ってみたい都道府県の尋ね方や答え方、その理由を伝える表現について理解している。【知】 <行動観察、振り返り、スライド>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行ってみたい場所を伝える表現を書き写そう。</li> <li>◆発表の工夫を考えよう。</li> <li>○【Let's Read and Write】行ってみたい都道府県名をアルファベットで書</li> </ul>		○	4 線上にアルファベットを正しく書き写すことができる。 行動観察、振り返りシート、ワークシート

	く。 ○発表内容を整理、発表準備をする。				
6 本時	◆行ってみたい場所、したいことを相手に分かりやすく伝えるための工夫を考え発表の練習をしよう。 ○【Final Activity】発表練習をペアで行い動画を撮影する。 ○ペアからのアドバイスを活かして発表を練習しレベルアップする。		◎	◎	◎外国の方と一緒に行ってみたい都道府県を紹介するために、そこでしてみたいことや理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。【思・判・表】 〈行動観察、振り返り、動画〉 ◎相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本表現を用いて話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。 ・児童がスピーチ練習をしている様子を見取り、評価の記録に残す。【主】 〈行動観察、振り返り〉
7	◆行ってみたい場所としたいことについて、相手に分かりやすく発表しよう。 ○【Final Activity】聞き手の場合は、発表シートの視点に基づき評価する。 ○単元のまとめの振り返りをする。	◎		◎	◎行ってみたい都道府県の尋ね方や答え方、その理由を伝える表現について、発表する技能を身に付けている。【技】〈発表、動画〉 ◎外国の方と一緒に行ってみたい都道府県を紹介するために、そこでできることや理由について、これまで学習の中で気づいたことを活かしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、発表しようとしている。【主】 〈行動観察、振り返り〉

(6) 本時の指導


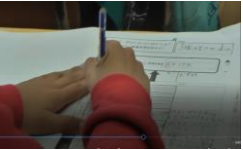
① ねらい (6/7)

行ってみたい場所としてみたいことを、相手に分かりやすく発表するための工夫を考えることができる。




② 本時の観点別評価規準

評価の観点	・仲間からのアドバイスを活かして発表をレベルアップすることができる。 【思・判・表】【主】
評価規準	・外国の方と一緒に行ってみたい都道府県を紹介するために、そこでできることや理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。 ・相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本表現を用いて話そうとしている。
評価方法	授業内：行動観察 授業後：振り返りシート、動画

③ 展開

過程	学習活動・内容・発問等	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
導入 8分	1 あいさつをする ・How are you? ・What day is it today? 曜日、日付を書く ・学習の流れの確認	○I' m(fine. hungry.)等 ○曜日や日付けのスペルを言う。	 
展開 27分	2 チャンツ “Where do you want to go?” ・質問か答えかどちらのパートを歌いますか?尋ねるパート? 答えるパート?  3 めあて  Today's Goal: 相手に分かりやすく伝えるための工夫を考え発表練習をしよう。	○尋ねる方がいいかな。	
	4 発表のポイントと工夫の確認 ・発表のポイント覚えていますか? ・工夫にはどんなものがありましたか?	○ゆっくり、はっきり ○声のトーン ○季節や月を入れる、気持ちを入れる。	・発表のポイントと工夫を提示する。



<p>まとめ 10分</p>	<p>5 教師によるデモンストレーション ・先生の発表いい所？アドバイスはありますか？</p> <p>6 ペア活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ペア活動の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①発表する</li> <li>②コメント、アドバイス</li> <li>③動画を見る</li> <li>④練習する</li> <li>⑤もう1度撮影する</li> <li>⑥動画を見る</li> </ol> </div> <p>7 中間でモデルとなる児童の発表 ・○○さんのいい所はどこかな？ ・レベルアップするためのアドバイスはありますか？ ・発表練習をしていて困ったことはありませんか？</p> <p>8 ふりかえり ・振り返りの記入 ・できるようになったこと ・できなかったこと→ 解決方法 ・振り返りの共有</p>	<p>○ゆっくり話しているところがいい。 ○パソコン操作に気を取られているので、素早く操作して前を見た方がいい。</p>   <p>○声のトーンがいい。 ○もう少し前を見た方がいい。 ○表現の工夫「気持ち」を言っていない。</p> 	<p>・活動の流れを視覚化する。 ◎外国の方と一緒に都道府県を紹介するために、そこでできることや理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。 【思・判・表】 ◎相手に伝わるように工夫しながら、簡単な語句や基本表現を用いて話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。【主】</p>
--------------------	---	--	--

④ 板書計画（省略）

2 検証授業Ⅱ（実施日令和4年1月26日）

(1) 単元名

Lesson 7 I'd like pizza.

オリジナルメニューをつくろう（教育出版 ONE WORLD Smiles⑤）(2)

単元の目標

- ① 食べ物や料理，値段の表し方がわかって，言うことができる。（知識及び技能）
- ② 注文したり，注文を受けたりする表現がわかって，言うことができる。（知識及び技能）
- ③ おすすめのメニューを考えて，ワークシートに書くことができる。（思考力，判断力，表現力）
- ④ 丁寧な表現を使い，気持ちをこめてやり取りをしようとする。（学びに向かう力，人間性等）

(3) 単元について

- ① 単元観（省略）
- ② 児童観（省略）
- ③ 指導観

学習指導要領外国語目標（4）「話すこと [やり取り]」

ア 基本的な表現を指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

単元導入の場面では既習事項の What do you want?/ I want a ～. と、本単元の表現 What would you like? I'd like ～. の表現が異なり、ふつうの言い方と丁寧な言い方があることに気付かせたい。毎時、授業の導入ではチャンツを取り入れ、スモールトークにおいてお店でのやり取りを通して、丁寧な注文の仕方や値段の尋ね方、答え方に慣れていけるようにしたい。そうすることで、本単元の主活動であるレストランでの注文をしたり、受けたり、値段を表現できるよう繰り返し練習できる場面をつくり、自信を持って英語を使ったやり取り

ができるようにしたい。食育で学んだ沖縄料理の知識と、家庭科で学んだ栄養素を関連付け、「沖縄料理でレストランを開こう」を単元ゴールとし活動をしていきたい。本時（第5時）では栄養素（タンパク質、炭水化物、ビタミン）をバランスよく摂取できる沖縄料理メニューをつくるための注文を伝え合っていく。（買い物ロールプレイ）。その際、既習表現を活用し料理を注文された際に客に対して、料理の一言感（delicious. sweet ,good等）を伝え、表現を工夫できることに気付かせていく。また、第6時では簡単な語句を使って一言感想が表現できるよう、自分の表現したい語句について端末を活用して調べていく。端末のカメラ機能を活用しやり取りの場面を撮影したり、完成した沖縄料理メニューを撮影し学びの足跡を蓄積していきたい。家庭学習の課題、「レストランにおける表現のやり取り」を撮影し、共有ドライブに保存しモデルとなる児童の動画を共有し、次時の指導へと活かしていく。



(4) 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物や料理の名前、レストランでの注文の丁寧な受け答えや値段を尋ねる表現 (What would you like? I' d like 【食べ物】.) (How much? It' s 【値段】 yen.)について理解している。〈知識〉</li> <li>食べ物や料理の名前、レストランでの注文の丁寧な受け答えや値段を尋ねる表現 (What would you like? I' d like 【食べ物】.) (How much? It' s 【値段】 yen.)について、伝え合う技能を身に付けている。〈技能〉</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストランで料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合っている。</li> </ul>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>レストランで料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、これまでの学習の中で気づいたことを活かしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合おうとしている。</li> </ul>

(5) 単元の指導計画・評価計画

◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価（形成的評価）

時間	ねらい◆ 主な学習活動○	評価 「話すこと[やり取り]」		
		知 技	思 判 表	主 ◎評価規準 〈方法〉
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆レストランにおいて丁寧に注文したり、値段を尋ねたりするやり取りを聞いて、おおよその内容を理解する。</li> <li>○単元の見通しを持ち、本単元のゴールを知る。</li> <li>○丁寧な言い方と普通の言い方の違いを理解する。</li> <li>○【Small Talk】好きな給食</li> <li>○【Let' s watch】レストランで家族が注文している場面を視聴し、What would you like?/ I' d like ~ .などを用いた表現を聞き取る。</li> </ul>			○ 本時では記録に残す評価は行わないが目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆丁寧に注文したり、値段を尋ねたりするやり取りのおおその内容を理解する。</li> <li>◆100～1000の数字の言い方を知る。（百、五十のまとまり）</li> <li>○【Small Talk】お店でのやり取り（注文）</li> <li>○【Let' s Listen 1】注文したメニューや、注文するための表現について聞き取る。</li> </ul>	○		[インプット] 注文した料理や注文の表現の大体を聞き取り、メモをしたり、伝え合おうとしたりしている。 数字の言い方、値段の言い方を聞いて、発声している 行動観察、振り返りシート
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆注文を伝え合おう。</li> <li>○【Small Talk】お店でのやり取り（注文、会計）</li> <li>○【Activity 1】学習した表現を使って、注文内容を伝え合い、食べ物、飲み物を</li> </ul>	○		[アウトプット] 注文した料理や注文の表現を使ってお店でのやり取りをする。 行動観察、振り返りシート

	完成させる。				
4	<p>◆外国の人にすすめたい沖縄料理を伝えたり、ネパールの料理について聞き取ったりする。(オンライン)</p> <p>○【Let's Think2】【Let's Listen 2】学習した表現を使って、外国の人にすすめたい沖縄料理を伝える。</p> <p>○ネパール料理について内容を考えながら聞く。</p>			○	 
5 本 時	<p>◆沖縄料理メニューに入りたい食べ物を工夫しながら注文し合おう。</p> <p>○【Activity2】レストランのロールプレイをする。</p>		◎	○	◎レストランで料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合っている。【思・判・表】
6	<p>◆店員の工夫を調べて、話してみよう。</p> <p>○【Small Talk】お店でのやり取り（注文、会計、表現の工夫）</p> <p>○端末を活用し表現の工夫を調べる。</p> <p>○調べた表現を使ってやり取りをする。</p>		◎	◎	◎レストランで料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合っている。【思・判・表】
7	<p>◆沖縄料理ランチメニューを使って、レストランのロールプレイをする。</p> <p>○【Small Talk】お店でのやり取り（本時の内容）</p> <p>○【Final Activity】沖縄料理メニューでレストランを開く。</p>		◎	◎	◎レストランで料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、これまでの学習の中で気づいたことを活かしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合おうとしている。【主】 ◎食べ物や料理の名前、レストランでの注文の丁寧な受け答えや値段を尋ねる表現 (What would you like? I'd like (食べ物) How much? It's (値段).) について、伝え合う技能を身に付けている。〈技能〉

(6) 本時の指導

① ねらい


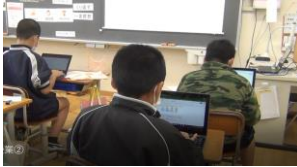
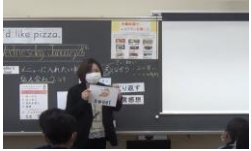
沖縄料理メニューに入りたい料理を、工夫しながら伝え合おう。(5/7)

② 本時の観点別評価規準

評価の観点	「話すこと[やり取り]」 【思・判・表】
評価規準	◎料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。【思・判・表】
評価方法	授業内：行動観察 授業後：振り返り、動画

③ 展開

過程	学習活動・内容・発問等	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
導入 8 分	<p>1 あいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・How are you?</li> <li>・What day is it today?</li> <li>・曜日、日付を書く</li> <li>・学習の流れの確認</li> </ul> <p>2 チャンツ “What would you like?”</p>	<p>○I'm (fine. hungry.)等</p> <p>○曜日や日付けのスペルを言う。</p>	
	3 めあて	Today's Goal: メニューに入りたい料理を、表現の工夫しながら伝え合おう。	
展開 27 分	<p>4 工夫を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合うときの工夫はどんなものがありますか。</li> <li>・“It's delicious”の一言感想はどのタイミングで入れた方がいいですか。</li> </ul>	<p>○ジェスチャーや表情(やり取りのポイント)</p> <p>○It's delicious.</p> <p>○食べた後に言う。</p>	

<p>まとめ 10分</p>	<p>5 教師のやり取りをもとに工夫点を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やり取りのポイントや工夫が入っているかをよく見て聞いて下さい。</li> <li>・デモンストレーション</li> <li>・先生たちの会話を見てやり取りのポイントや工夫は入っていましたか？</li> <li>・It's delicious," の表現以外に、どのような表現がありますか？</li> </ul> <p>6 買い物ロールプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aチーム客、Bチーム店員</li> </ul> <p>7 中間評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やり取りをしていて困ったことはありますか？（店員側、客側）</li> </ul> <p>8 買い物ロールプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aチーム店員、Bチーム客</li> </ul> <p>9 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの入力</li> <li>・動画を見てセルフチェックし次時への見通しを持つ。</li> <li>・できるようになったこと</li> <li>・できなかったこと→解決方法</li> </ul>	<p>○はじめのあいさつ、繰り返し、おわりのあいさつを言っている。</p> <p>○”delicious” っ言っている。</p> <p>○”good” も使えそう。</p>  <p>○一言感想の言い方が分からない。</p> <p>○お金や商品を渡すときにどう言うか困った。</p> 	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が店員、客ができるように4回に分けてロールプレイを行う。</li> <li>・活動の流れを視覚化する。</li> <li>◎レストランで料理を注文したり注文を受けたりするために、食べ物や料理、値段について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合っている。【思・判・表】</li> </ul>
--------------------	---	---	--

④ 板書計画（省略）

## VII 仮説の検証

児童の行動観察やアンケート、振り返りシートの記述内容より分析、検証する。

### 基本仮説

「話す[発表]」「話す[やり取り]」の場面において、ICTを活用し、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことで、主体的に学ぶ態度の育成が実現されるであろう。

### 1 具体仮説（1）の検証

#### 具体仮説（1）

「話すこと[発表]」「話すこと[やり取り]」の場面において、ICTの活用を工夫し相手意識や目的意識を持たせることにより、主体的に学ぶ態度を育成することができるであろう。

(1) 検証授業 I（「話すこと[発表]」における具体仮説(1)の検証内容を具体的に示す。）

場	「話すこと[発表]」 発表練習
手立て	<p>① ICTの活用工夫 ② 相手意識や目的意識</p> <p>端末のカメラ機能の活用</p> <p>自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えるための表現の工夫を考える。Google スライドを活用</p>
目指す児童の変容	主体的に学ぶ態度

① ICTの活用の工夫について

「話すこと[発表]」の活動を児童の主体的な学びにするために児童の興味・関心の高いICTを取り入れた。情報活用能力ベーシック外国語を基に、本単元におけるICTの活用を表6の通り計画的に行った。

表6 Lesson6におけるICTの活用表

活用段階	活用方法等	時間
課題の設定	・デジタル教材(動画の提示)	第1時～第7時(毎時)
情報の収集	行ってみたい都道府県の情報収集	第3時
整理・分析	【Googleスライド】 ・クイズ問題作成 ・発表スライド作成 ・カメラ機能を活用した発表練習セルフチェック	第4時 第5時 第6時
まとめ・表現	・分からない単語調べクイズ大会 ・発表スライド使用	第4時 第6,7時
振り返り・分析	【Googleドキュメント】 ・振り返りシート	第1時～第7時(毎時)

児童の行動観察からお互いの発表練習を端末のカメラ機能を活用して録画し、単元ゴールの発表に向かって一生懸命練習する姿が見られた。カメラ機能を活用しての撮影経験があることから、ほとんどの児童が操作に困ることがなかったものの、少々恥ずかしさが見られる場面もあったが、すぐにペアと打ち解け活動を進める様子が見られた。みんなについていけないか不安という抽出児童Aは、振り返りで「できるようになったことは2つあります。1つ目は、楽しく学べました。2つ目は明るく発表できました。」と記述し、行動観察からも笑顔でペアと協力して操作方法や発表の分からない部分を教えてもらう姿が見られた。

図2は検証授業Iの単元における児童の主体的な学びの視点A「楽しさを感じている」に関する振り返りである。3、4の数値に着目してみると第6時25人(検証授業I)第3時24人、第7時23人である。活動内容は第6時、第7時は端末を活用しての発表練習と発表を行った活動、第3時は行ってみたい都道府県について調べる活動である。このことから児童が相手意識、目的意識を持ち単元ゴールに向かって主体的に学習に取り組むことができたと考える。意図的・計画的にICTを活用したことが児童の主体的学びの育成につながったと考える。

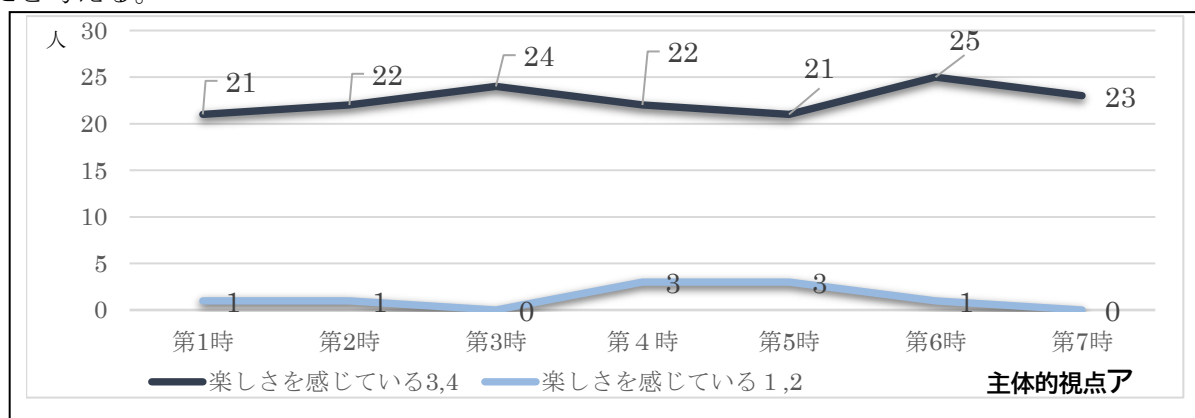


図2 Lesson6単元における「授業を楽しんだか、学習満足度」振り返りシートより

② 相手意識や目的意識

児童の興味・関心を引き出すためには、相手や目的を明確にした場面状況設定が重要である。単元ゴールの「話すこと[発表]」において「日本の自然や文化を知ってほしい」「トニーさんと一緒に行ってみたい場所を相手に分かりやすく発表しよう」という単元ゴールを設定し(図3)、相手意識、目的意識を明確にした。「トニーさんってどんな人なんだろう」、「トニーさんについて知りたい」という声があがり、トニーさんの趣味や好きなスポーツ、好きな食べ物等の質問が挙がった。その質問に対して答えを出すと、授業を進めていく中で児童

が「トニーさんは登山が好きだから、富士山のある山梨県にしよう」や「海産物が好きだから沖縄の海産物を食べてほしい」等、行ってみたい都道府県が相手意識を持った内容へと変化が見られた。児童の感想から第3時で、「トニーさんの好きな物、好きなことが分かったのだから行きたい所を考えた」第4時では「see, eat, buy, を使ってトニーさんと一緒に行きたい都道府県を紹介したいです」第7時には「私の発表がトニーさんに伝わると嬉しいです」とあり、児童が相手意識持って活動に取り組んだことと考える。

### 単元ゴール

トニーさんと一緒に行みたい場所を相手に分かりやすく発表しよう。

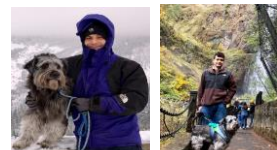


図3 単元ゴール

自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えるため児童から出てきたポイント図4を視覚化し意識づけをした。また、図5のような表現の工夫が児童から出てきた。児童観察から表現の工夫を言えている児童が6割程度であることから、発表するときのポイント

(図4)はどの教科等でも実践できるようにし、外国語の授業においては、表現の工夫(図5)が英語で伝えることに意識を向け児童が自分の考えや気持ちを伝えることができるよう指導の工夫改善を図る。

【外国語】発表名人になる！  
相手に考えや気持ちが伝わる！

発表するときのポイント

- 1 ゆっくり
- 2 はっきり
- 3 前を見て
- 4 声のトーン
- 5 表情 (マスク着用時は眉もポイント)
- 6 ジェスチャー

図4 発表のポイント

相手に考えや気持ちが伝わる!!



### 工夫

- 1 気持ち
- 2 季節
- 3 〇月
- 4 今まで習った表現を使ってみる

図5 表現の工夫

(2) 検証授業Ⅱ具体仮説 (「話すこと[やり取り]」における具体仮説(1)の検証内容を具体的に示す。)

場	「話すこと[やり取り]」
手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ICTの活用の工夫</li> <li>② 相手意識や目的意識</li> </ol> <p>端末のカメラ機能の活用</p> <p>店員が客に対して、自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えるための表現の工夫を考え、伝える。</p>
目指す児童の変容	主体的に学ぶ態度

① ICTの活用の工夫について

情報活用能力ベーシック外国語に基づき、本単元におけるICT活用を表7の通り、計画的に行った。本時のねらいである「表現の工夫をしながら相伝え合う」ことを達成するために、店員の際に端末のカメラ機能を活用して、ロールプレイの撮影を取り入れた。児童は検証授業Ⅰや日常的に動画を撮影することに慣れておりスムーズに活動ができた。抽出児童Bの振り返りから「ロールプレイをして店員役、お客役の両方がちゃんとできたから楽しかった」とあり学習満足度も4と高い数値であった。また、行動観察では端末の活用には慣れていてペアにアドバイスを与える場面も見られた。「本物のお店で買い物をしているみたいで楽しかった」や、「沖縄料理の店員を上手くできて、丁寧に話せた」と場の設定、表現の工夫を伝えることができた、やり取りに対する達成感が理由として上がった。検証授業Ⅰでは、ペアに動画を撮影してもら

表7 Lesson7 におけるICTの活用表

活用段階	活用方法等	時間
課題の設定	・デジタル教材(動画の提示)	第1時～第7時(毎時)
情報の収集	・沖縄料理の情報収集 【Google meet】 ・ネパール料理、沖縄料理紹介 ・表現の工夫調べ	帯学習 第4時 第6時
整理・分析	・カメラ機能を活用したやり取りセルフチェック	第5時 家庭学習
まとめ・表現	【Google スライド】 ・沖縄料理オリジナルメニュー保存	第7時
振り返り・分析	【Google ドキュメント】 ・振り返りシート	第1時～第7時(毎時)

することに慣れておりスムーズに活動ができた。抽出児童Bの振り返りから「ロールプレイをして店員役、お客役の両方がちゃんとできたから楽しかった」とあり学習満足度も4と高い数値であった。また、行動観察では端末の活用には慣れていてペアにアドバイスを与える場面も見られた。「本物のお店で買い物をしているみたいで楽しかった」や、「沖縄料理の店員を上手くできて、丁寧に話せた」と場の設定、表現の工夫を伝えることができた、やり取りに対する達成感が理由として上がった。検証授業Ⅰでは、ペアに動画を撮影してもら

際に相手の端末を活用していたが、今回はペアに自分自身の端末で撮影してもらった。そのことにより振り返りの場面ですぐに動画を視聴しセルフチェックをすることができた。

図6はLesson7における児童の主体的な学びの視点ア「楽しさを感じている」に関する振り返りである。第4時から第7時は楽しさを感じている児童が100%となっている。表4の通り、第4時はオンラインでネパールの方とつながりネパール料理の紹介を聞いたり、沖縄料理を紹介したりという活動を取り入れた。第5時（検証授業）では、ロールプレイを撮影しセルフチェックをする活動、第6時は表現の工夫を調べたり、音声を聴いたり発声したりした。第7時ではメニューを撮影し学びの足跡を残した。ICTを活用したことにより主体的に学ぶ態度へ繋がったと捉える。楽しさを感じている1, 2の数値に着目すると、第2時に否定的な回答をしている児童が4名いる。第2時の学習活動は、レストランでの注文や値段を尋ねたりすることの聞き取り、100 から 1000 の数字や値段の表現の練習であった。数字や値段の表現を電子黒板を活用し一斉に練習を行った。児童が楽しさを感じ主体的な学びに繋がるよう、学習活動の工夫を図る必要があると考える。

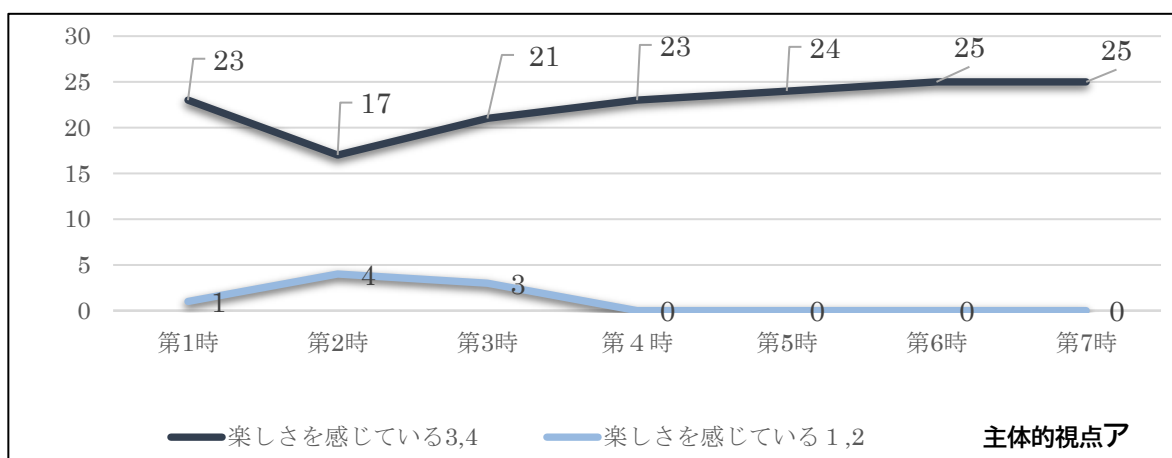


図6 Lesson7 単元における「授業を楽しんだか、学習満足度」振り返りシートより

検証授業Ⅱの単元において、児童が楽しんで家庭学習に取り組むことや、粘り強く練習に取り組むこと、セルフチェックを通して自分のできていることや課題に気付くことをねらいとし、児童が第3時終了後から端末を活用し、まなびリンク（教育出版）からチャンツを聴く課題や、レストランでのやり取りを撮影し提出するという家庭学習の課題を出した。児童の動画から一人一人のできていることや課題を見出し、授業づくりへと活かした。

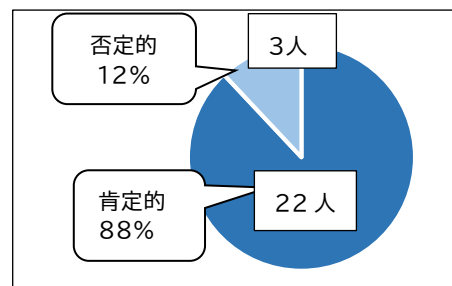


図7 アンケート「家庭学習について」

モデルとなる児童の動画を共有し、やり取りの質を高めていった。図7は端末を活用した家庭学習についてのアンケート結果である。「チャンツを聞いたり、やり取りの家庭学習を楽しんで取り組みましたか」という質問に対して、22人（88%）の児童が肯定的な回答をした。理由としては「どんどん練習をしていくにつれて、上手になっていった」や抽出児童Aは「英語をもっと言えるように頑張って、取り組んで楽しくできた」とあった。「家庭学習が授業で役に立ちましたか」という質問に対しても、22人（88%）の児童が肯定的な回答と図6と同様の数値となった。否定的な回答をした児童は3人（12%）からは、「難しかった」や「取り組めなかった」との理由があった。「端末を活用した家庭学習で困ったことはありますか」という問いに対して、19人（83%）の児童がないと答え、4人（17%）の児童があると答えた。困った理由としては、技能面では「どうやって言うか分からない時があった」技能面に関しては教師の支援が必要な児童もいる。「撮影場所に困った」という児童もおり、撮影場所に関しては学校で撮影する等の個別の対応も考える必要がある。端末の操作についての

困り感はなく、児童が端末の操作方法に慣れていることが分かる。

検証前、検証授業Ⅰ、Ⅱ終了後のアンケートにおいて（図8）「あなたは、外国語の授業で端末を使うことが楽しいですか」という質問に対して、検証前と検証授業Ⅰ、Ⅱ終了後では肯定的な回答が8割を超え、児童が外国語の授業で端末を活用することを楽しんでいることが分かる。「色々な機能が使えるから」や、「パソコン操作が上手になるから」と操作に関する理由を挙げている児童や、「自分の話していることが分かる」や「できていないことが分かる」といった技能に関する理由も挙げた。一方の否定的な回答をした児童が検証授業Ⅰ、Ⅱ終了後に全体の3人（12%）、理由として「撮影するのがはずかしいから」や、「分からないときに困る」との声が挙げた。「撮影することが恥ずかしい」と言った抽出児童Dに対しては、撮影方法の選択肢を与え本人のできることから活動を進めていきたい。また「分からない時に困る」と答えた児童に対しの手立てとして、教師の支援やペアの組み方を更に考えていく。

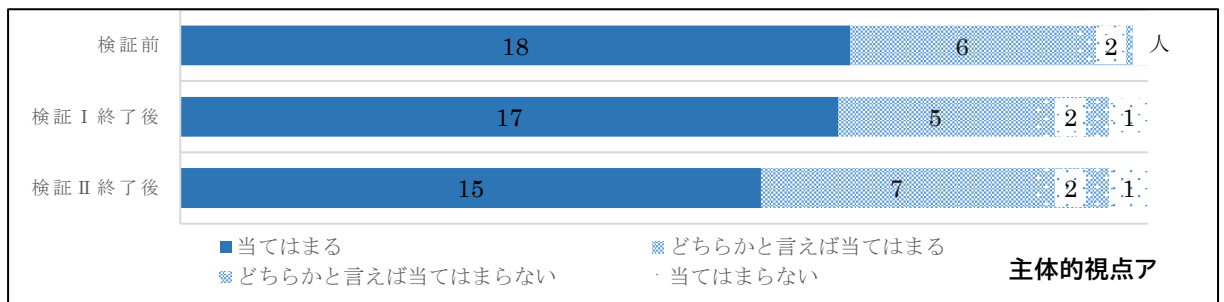


図8 「外国語の授業で端末を使うことが楽しい」アンケート

② 相手意識や目的意識

本単元ゴールを「沖縄料理でレストランを開こう」とし、児童が安心してやり取りを行えるようにコミュニケーションを行う相手を身近にいる学級の仲間とした。食生活学習教材「くわっち～さびら」の副読本を活用した食育「沖縄料理」と、家庭科における栄養素についての学習を活用し児童に身近な「沖縄料理」を取り上げ実践した。また、単元学習期間に全国学校給食週間の取り組みがあり、沖縄県産の食材をより多く使った沖縄料理を頂きより身近に感じることができた。検証授業Ⅱの単元においても、検証授業Ⅰの単元同様、毎時単元ゴールを確認し図11を提示し本時のめあてへと繋げた。毎時のスモールトークでは相手を意識した「やり取りのポイント」図10を意識させ活動に取り組みさせた。その結果、検証授業（第5時）、第6時、単元ゴールの第7時へと児童がやり取りのポイントを意識し取り組んだことが児童の行動観察から見えた。



図9 ロールプレイの様子

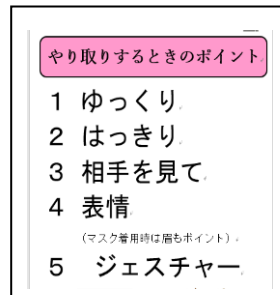


図10 やり取りポイント



図11 単元ゴールの掲示物

学級の仲間に「好きな沖縄料理を知ってほしい」また、自分の考えや気持ちを伝えるために料理に関する一言感想を表現の工夫として取り上げ（店員）、図12のように既習表現の”good”や”delicious”に加え、児童に身近で簡単な語句として”sweet”を取り上げた。振り返り出児童Aは、「できたことはgoodが言えたことです。できなかったことはIt'sを言い忘れたことです。」とあ



図12 表現の工夫



り、店員役の活動において、相手を意識して自分の気持ちを丁寧に伝えることに取り組んだと考える。さらに第6時では、相手に自分の気持ちを伝えるために沖縄料理オリジナルメニューの料理に対して「表現したい簡単な語句」を、端末を活用して自分で調べる活動を取り入れた。児童が自分の表現したい語句を主体的に調べる様子が見られた。抽出児童Bの振り返りから、「(前略) 以外だったものは、甘酸っぱいで sweet and sour だというのが意外でした。友達と話して2人からの注文だったけど2つ工夫を言えたので良かったです。次がとても楽しみです。次も頑張りたいです。」と、自分の気持ちを伝える活動を通して相手意識、目的意識を持ち活動したことが分かる。また、その表現を活用しやり取りを行ったことにより次時の単元ゴールに向かっての意欲へ繋がったと考える。

## 2 具体仮説(2)の検証

具体仮説(2)  
 学習活動を振り返る場面において、4択形式や記述等で振り返らせることにより、自分のできていることや課題に気づき、学習の見直しを持つことで主体的な学びができるであろう。

検証授業Ⅰ、Ⅱ (具体仮説(2)の検証内容を具体的に示す。)

場	自分の学習活動を振り返る場面 ・セルフチェック(動画視聴)において ・振り返りの場面において
手立て	振り返りシートやチェックシートを活用し、学習活動を4択形式や記述で振り返り、自分のできていることや課題に気付かせる
目指す児童の変容	主体的に学ぶ態度

### (1) 検証授業Ⅰにおける考察



図13 ペアからのチェックシート 図14 自分の動画を視聴の様子 図15 練習、撮影の様子

自分のできていることや、課題に気付くためペアに発表練習の様子を撮影してもらい、図13のチェックシートを活用し発表を評価する活動と取り入れた。さらに、ペアからのチェックシートを基に動画を視聴し(図14)、その後、課題に気づき練習に取り組んだ(図15)。授業後のアンケートにおいて「発表練習の動画を視聴し、1回目の発表より2回目の発表は改善されましたか」という質問に対して、肯定的な回答した児童が21名(84%)、否定的な回答をした児童が4名(16%)と8割以上の児童が肯定的な回答をしたことから、自分のできていることや課題に気づきがあったと捉える。否定的な回答をした児童に対しては、セルフチェックをする際に教師と一緒に動画を視聴したり、練習をしたりする等の支援していく。毎時間のめあてや単元ゴールを意識した声かけをし、児童が「できていること」への気づきとなるよう支援し主体的な学びにつながるようにしていきたい。

### (2) 検証授業Ⅱにおける考察

自分のできていることや課題に気付くための手立てとして図17のお客さんシートを活用し客役時にできていることには「できていたポイント」、課題に対しては「がんばれポイント」とし、ペアがチェックをするという活動を取り入れた。児童観察から、6回買い物をする中でペアに対してはじめは、やり取りを見てアドバイスを与え、最後の6回目でお客さんシートに記入するという自ら評価方法を工夫している児童も見られた。また、客役を交代した際に「自分は、はっきり言えなかったから、はっきり言えるようにがんばってよ」と声かけをする場面からペ

ア活動を通してお互いが高まり合おうという姿も見られた。お客さんシートが単元ゴールの「沖縄料理でレストランを開こう」において役に立ったと回答した児童が18名(94%)という結果や児童の行動観察からも自分の課題を意識して取り組んだことが分かる。



図16 ロールプレイ

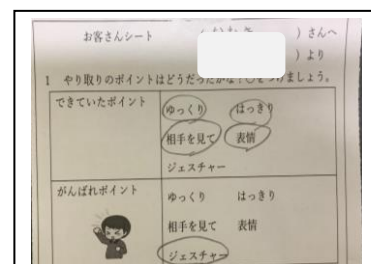


図17 お客さんシート

店員時に自分のできていることや課題に気付く手段として、図18のように端末のカメラ機能を活用し、ペアに撮影をしてもらい(図19)セルフチェックを行った。児童の振り返りから「今日は、メニューを作ったり料理を工夫しながら伝え合って、一言感想もしっかりと言えて、だいたい全部言えたので良かったです。動画でもしっかり言えていて、とても嬉しかったです。(後略)」や「(前略)今までの自己評価は4だったけど、図18



図18 ロールプレイ撮影

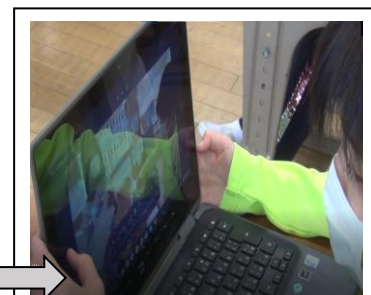


図19 セルフチェック

7くらいまでのレベルになれた」とあり、自分のできていることに気付けたと考える。また、抽出児童Cは「今日〇〇〇さんの助けがないと、ずっと”How much?”が言えなかった。(後略)」という児童は自己の課題に気付くことができたと捉える。

毎時間外国語のGoogle Classroomから「振り返りシート」の課題を受け取り入力後、提出することを実践した。児童が端末を文房具のように使いこなせるようになるには、日常的に使い慣れていくことが重要と考える。また、児童と共有したい振り返りシートはストリームで流し振り返りの質を高めていく。振り返りでは視点を与えることにより、自己の課題に気付きこれらの改善方法を導き出すことで、自己学習調整力が身につくと考える。

図1で示した振り返りシートの質問4における記述の視点は、できるようになったこと、できなかったこと、できなかったことに対してのどのようにしたらできるようになるかの解決方法を考え入力していく。図20はそれら

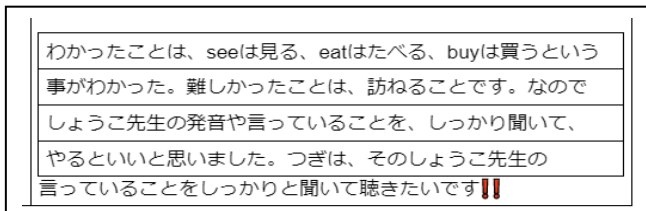


図20 視点に基づき書かれた振り返り(原文のまま)

視点から自らの活動を振り返っている。次時の授業においも記述したことを意識して取り組む姿が見られた。振り返りの視点に沿って書くことのできている児童の振り返りシートを共有することで、自ら課題に対する解決方法が見つかったり「自分ならこうする」と、相手の課題に対しても自分事に捉えアドバイスを与えたりする姿が見られた。

図21「自分のできていることや課題に気付いているか」の質問に対しては、検証前では21人(87%)の児童が肯定的回答し、検証授業Ⅰ終了時には20人(83%)、検証授業Ⅱ終了時には24人(96%)と9割を超える児童が肯定的な回答をしていることから、自分のできていることや課題に気付いたことが分かる。端末のカメラ機能の活用やセルフチェック、振り返りが有効だったと捉える。検証前に自分のよさや課題に気付くことができないと答えた抽出児童A、B、Cとも上記の質問に対して検証授業Ⅱ単元終了後「当てはまる」と回答した。抽出児童Cは授業内の行動観察から、積極的に発表したり、分からないところは「どうやって言えばいいの」等「できるようになりたい」という意欲が見られた。

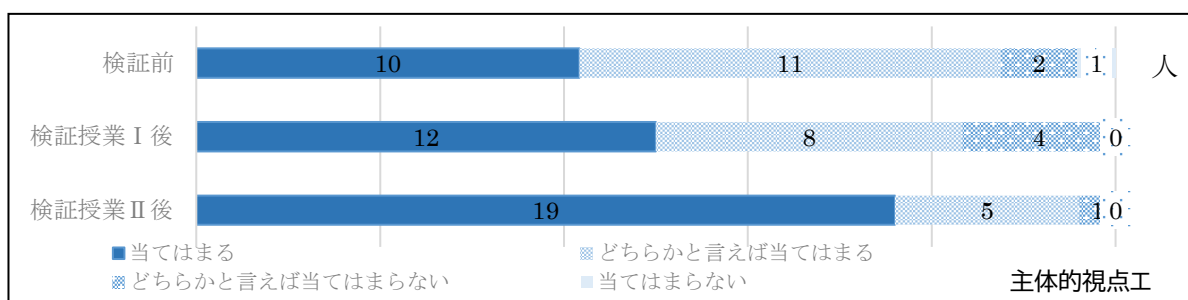


図 21 アンケート「自分のできていることや課題に気付いているか」

図 22 は「英語が話せるようになるために練習に取り組んでいるか」という質問に対して肯定的な回答をした児童が検証前では 18 人（70%）、検証授業Ⅰ終了時後には 21 人（84%）、検証授業Ⅱ終了後においては 22 人（88%）である。一方の否定的な回答をした児童が検証前では 8 名（30%）、検証授業Ⅱ終了後には 4 人（16%）、検証授業Ⅱ終了後においては（12%）となった。検証前と検証授業終了後と比較すると、肯定的な回答をした児童が次第に増加したことが分かる。端末のカメラ機能の活用やセルフチェックを行ったこと、家庭学習の取り組みを通して練習する機会を与えたことが有効だったと捉える。

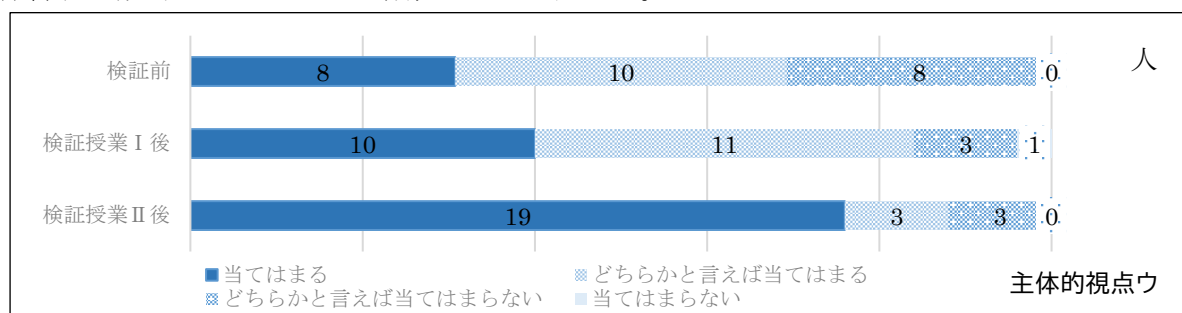


図 22 「英語が話せるようになるために練習に取り組んでいるか」アンケート

検証授業前と、検証授業Ⅱ単元終了後にアンケートを実施した。「外国語において「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」でどの活動を楽しんでいますか。また、苦手意識のある活動はどの活動ですか。」という質問に対して、図 24 の検証前「話すこと[やり取り]」を楽しむ児童が 12 人（50%）と学級の半数を占めた。理由として「英語が通じて嬉しい」や「相手のことが知れるから」等の理由が挙げられた。検証授業Ⅱ終了後では 15 人（63%）と学級の半数以上を占めている。理由としては「外国の人と会った時に役立つから」と英語を活用することに対する期待や、「隣の人や前の人間違っているのを教えてくれるから」と学びの上での環境を理由として挙げた児童もいた。また、「とても楽しくできて、話せなかったのが話せるようになった」と達成感を味わい活動を楽しめたと感じ取る児童もいた。

図 23 の「話すこと [発表]」の数値に着目してみると、検証前に苦手意識を感じている児童が 10 人（42%）と高い数値である。理由としては「発表が苦手だから」「発表して間違えるとちょっと嫌になるから」等の理由が挙げられた。検証後のアンケートでは 6 人（25%）と減少した。理由として「恥ずかしいから」や「みんなの前で発表は少し緊張してうまく話せないから」とあった。検証前に理由として複数名挙げられていた「間違えると嫌になる」という理由は見られず、児童が話すことにおいてミスをして仲間が教えてくれる安心感、自ら再度挑戦し話せるようになりたいという主体的に学ぶ態度が見られた。このようなことから児童が「話すこと」に自信が持てたと捉える。

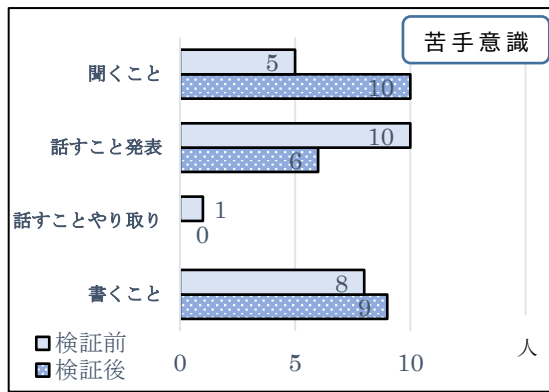


図 23 苦手意識のある活動

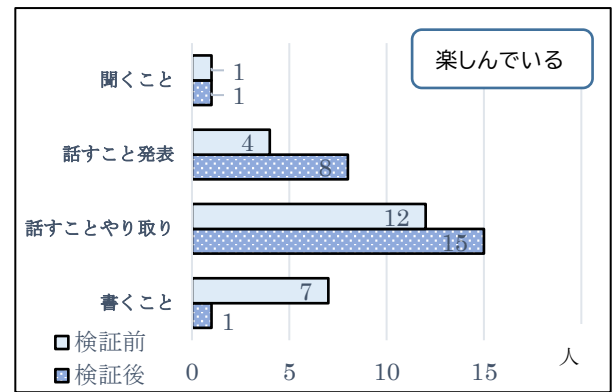


図 24 楽しんでいる活動

## VIII 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 単元全体を通して ICT の活用を意図的、計画的に行い、単元ゴールに向かって相手意識、目的意識を持ち学習活動に主体的に取り組む姿が見られた。
- (2) 学習活動を 4 択形式や記述等での振り返りを毎時行うことで、自己の変容に気付き、次時の学びへ繋げ主体的に学ぶ態度を養うことができた。
- (3) やり取りや発表の練習、家庭学習の課題への取り組みを、端末のカメラ機能を活用しセルフチェックを行うことで、自己を客観的に捉え自分のできていることや課題に気付き、見通しを持ち粘り強く練習に取り組む姿が見られた。

### 2 課題と対応策

- (1) 自分のできていることや課題に気付けない児童がいた。まずは自分のできていることに実感できるように個別に支援したり、学習形態について工夫改善を図る。
- (2) 振り返りシートを毎時ごとに作成したため、単元を通しての変容が見えなかった。児童の変容が一目で分かるようにした振り返りシートとなるよう、工夫が必要である。

### <参考文献>

- 菅正隆 2021 『小学校教師のためのやってはいけない英語の授業』 ぎょうせい
- 沖縄県教育委員会 2021 『「問い」が生まれる授業サポートガイド』
- 新潟大学附属新潟小学校初等教育研究会 2021 『G I G A スクールに対応した全教科・領域の授業モデル』 明治図書
- 国立教育政策研究所教育課程センター 2020 『「指導の評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校外国語』 東洋館出版
- 菅正隆 2019 『小学校外国語活動・外国語授業づくりガイドブック』 明治図書
- 菅正隆 2017 『平成 29 年改訂小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語』 ぎょうせい
- 文部科学省 2017 『小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 外国語活動・外国語編』 開隆堂出版
- 文部科学省 2017 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』

### <参考 WEB サイト>

- うるま市教育支援センター「G I G A スクール構想ビジョン」
- 一般社団法人日本教育情報化振興会
- 菅原慧美 2021 「主体的な学びと振り返りの相互関係の考察」  
file:///C:/User/USER02/Downloads/gstt-12-01000107(7).pdf (最終閲覧 2021 年 12 月)
- 西川知晃、町岳 2021 「小学校外国語における児童の振り返りを促進する方略の効果：省察場面でのモニタリングとコントロールに焦点を当てて」  
http://doi.org/10.14945/00027924 (最終閲覧 2021 年 12 月)